

## 現代青年の交友・恋愛・結婚に関する意識調査

鈴木康平\*・山浦一保\*\*

### The Concept of Friendship for Opposite Sex, Love and Marriage by Young People of Today

Kouhei SUZUKI and Kazuho YAMAURA

(Received October 3, 1994)

This paper examines the change of concept in friendship between opposite sexes, love, and marriage, held by young people of today and those of about ten years ago. Two hundred and twenty senior high school students and four hundred and thirteen undergraduate students were asked to participate in a questionnaire containing 10 different question items, i. e., the way of going with the opposite sex friend, his/her own evaluation of various kinds of opinions about sex, type of ideal marriage, image-color of love and marriage, desirable characteristics of his/her spouse, etc. Stimulating results were obtained indicating that young people of today are more progressive in their opinions and actions of their own romantic love and marriages, compared with the youth of the past.

#### 問 題

青年にとって、交友関係・恋愛・結婚に関する問題は極めて大きな意義を持つことは多言を要しない。この問題は人類の抱える旧くて常に新しい問題であると言える。青年心理学の領域でも当然のことながら、その研究領域の中で中心的な問題となってきた、現代青年心理学の夜明けを告げた Hall, S. の *Adolescence* (1904) と Spranger, E. の *Psychologie des Jugendalters* (1914) においても、この問題は極めて重要な位置を与えられている。また、両者の後を追うように続々と世に出された青年心理学の多くの書においても事情は同じである。例えば、野上は大正8年に出版した「青年心理学講話」(1919)において全6章のうちの最終章を「性慾教育」にあて、牛島は先の大戦の直前昭和15年出版の「青年の心理」(1940)で3編構成のうちの1編を「社会意識の発達」とし、エロス、友愛等の事柄を扱い、戦後昭和28年、依田と大西は「青年心理学」(1953)全6章編成の著書で2つの章「自我と社会」「性生活」をあて詳しく論述している。以降、西平(1973)、久世ら(1977)、鈴木・松田ら(1987)の青年心理学の著書には、全てこの領域の事柄がとりあげられ論じられ

ている。

ここでは、変化の度合いが著しさを増してきた昨今の我国における青年たちがこれらの問題に対してどのように振る舞い、意識しているかをあらためて探ろうとする。十年ひと昔という言葉いわしは、今や誇張でも何でもなくなって、文字どおりそのことが実感できる世の中となった。いな、それどころか、5-6年前はもう昔とすら言っても奇異な感じがしなくなった感さえある。

最近、学部3年生が「最近の高校生の気持ちはわからない。私たちも年をとったもんだ」と、苦笑しながら話しているのを聞いた。冗談が半分にせよ、彼女らが実感として世代の差の何かを受けとめているのであろう。

ところでこの様に変化の激しい時代にあって、古来から大きな問題とされてきた青年期における交友、恋愛、結婚への意識などは、はたして時代の変遷とともに大きなうねりとなって、十年ひと昔の言葉通り大きく様変わりしているのであろうか。それとも、時とところを超えて普遍的な行動様式あるいは意識が存在しているのであろうか。日常生活の中で前述の学生たちが感じているような変化が、どこかに実際に生起しているのか、それは単に、世間一般の若者に対する一種のステレオタイプとみなすべき現象なのであろうか。

面白いことに前述の最近の高校生の心が掴み難い

\* 心理学科

\*\* 熊本大学大学院教育学研究科在学

と言っていた学生たち自身まさに現代青年そのものである。

われわれは、ここで、急激に変化する社会の中で生きる現代の青年たちの交友、恋愛、結婚観を把握することを目的とする。そのため10年ほどの隔たりをひとつの目処にして、以前に行われたこの種の領域の調査研究を基礎において、1994年現在、高校生、大学生である若者たちを対象に、あらためて以前と同様の質問を投げかけ、彼ら彼女らの行動や意識を、ひと昔前の青年たちのそれと比較検討をしながら考察してみようと思う。ここでの比較研究の基礎として参照・引用するのは、望月嵩(1975)、東京都生活文化局(1982)、詫摩武俊(1985)、山田良一、山田英美(1986)らの研究である。なお、現代青年たちが自分自身の世代をどのように認識しているかなど、この研究で独自に設けたいいくつかの項目についての検討もあわせて行う。

## 方 法

調査対象：高校生(男子105名、女子155名)、大学生(男子275名、女子138名)

調査方法：質問紙調査法・集合一斉調査(大学生は筆者自身が、高校生は担任教師が教示者)

調査期間：平成6年5月-7月

## 質問紙調査の構成：

交際している異性の有無 異性との交際の仕方  
意識 純潔観 異性間の友情の成立の可否  
恋愛と結婚の一致の程度 恋愛と結婚についてイメージする色 結婚に当たって重視する事柄 現代青年の特質の認知

(具体的な質問紙は本文末付録に掲載)

## 結果と考察

### 1 異性との交際の実態

これについて、東京都生活文化局が1982年に行った調査とわれわれが1994年に行った調査とを比較してみる。

#### 1-1 交際中の異性の有無

「現在特に親しくしている異性がありますか」の質問に対する回答を見てみると、12年前の東京の高校生では男子512名中143名(27.9%)、女子510名中168名(32.9%)が「あり」と回答、今回のわれわれの調査では男子105名中28名(26.7%)、女子155名中48名(31.0%)が「あり」と回答している。両者とも類似の出現率が得られたことは興味深い(男女とも「あり」と答えた者の割合は12年前と今回で有意差なし。尤度比検定による)。参考までに現在の大学生の回答を見ると、「交際相手あり」と答えたのは男子275名

表1 異性との交際の仕方 (%)

	高校生・1982年 (東京都)*		高校生・1994年 (鈴木・山浦)		大学生・1994年 (鈴木・山浦)	
	男	女	男	女	男	女
a. 学校の行き帰りに会う	68.5	60.1	75.0	50.0	22.4	27.9
b. 毎晩電話、手紙	34.3	38.1	25.0	31.3	34.6	34.9
c. 手をつないで歩く	55.9	56.5	10.7	14.6	39.3	39.5
d. 2人で映画	51.0	49.4	7.1	8.3	39.3	47.7
e. キス	43.4	43.5	25.0	20.8	37.4	48.8
f. グループでドライブ	19.6	33.3	7.1	18.8	39.3	45.4
g. グループで外泊	10.5	11.3	3.6	8.3	8.4	17.4
h. 自分たちの結婚の話	13.3	20.2	3.6	6.3	16.8	34.9
i. セックス(性交)	17.5	20.8	10.7	12.5	40.2	40.7
j. 2人でドライブ	13.3	27.4	14.3	12.5	49.5	61.6
k. 部屋で2人きりになる	44.1	44.0	21.4	27.1	44.9	54.7
l. 2人で外泊	8.4	8.3	0.0	2.1	21.5	32.6
m. ペットting	29.4	27.4	10.7	16.7	32.7	40.7
(N)	(143)	(168)	(28)	(48)	(107)	(86)

\* 東京生活文化局 1982

(複数回答)

中107名 (38.9%), 女子138名中86名 (62.3%)で、高校生のそれを上回っているが、男子が女子と比べて有意に低い率 ( $\chi^2=20.229, df=1, p<.01$ ) であったのは予想外であった。

### 1-2 交際中の異性との交際の仕方

これについては、東京都生活文化局の調査項目を使用して今回の調査項目と比較検討してみる。表1にそれを示す (複数回答)。

これについて見ると、世間で言われているほど、最近の高校生が異性との交際を自由気ままに行っているという印象は強くない。都会と地方という環境の違いを考慮に入れても、そのような印象は拭えない。この情報化社会の今日、都会と地方という区別は若者たちにはあまり通じないと思われるのであるが、われわれの想像する以上に地域の特性が、若者の性に対する意識や行動に大きな影響を与えていると言えなくもない資料である。

ちなみに大学生の場合は、高校生に比べてはるかに深い交際の仕方をしている。

## 2 性意識

この項についても1982年に東京都生活文化局の実施した10項目を活用して調査した結果を、図1-1、1-2、1-3に示す (この調査では各項目に対する選択肢を独自に作成したので東京都の結果と厳密な意味では直接比較をしい得ないので、参考までに結果を図示して、およその傾向を見ることとする。本

調査では「大いに賛成」「どちらかといえば賛成」への回答を合わせて「賛成」の割合 (%) として図に示す)。

上の節1-2で見たと同様、「異性の交際の仕方」そのものについての回答は、今回の調査対象の高校生の方が、どちらかといえば控え目な、いわゆる保守的な行動傾向を示していた。ところが、性に関する行動ではなく、頭の中でどのように考えているか、つまり「性に関する意見」については、図1-1および1-2に見るように、12年前の高校生の意識を上回って性の自由化への傾向がうかがえる。ちなみに「セックスは人間にとって大切なものと思う」、「性について関心がある」、「性に関する事柄についてよく考えることがある」、「セックスは楽しいものだと思う」、「お互いの愛を確かめあうためにはセックスが必要だ」の各項目で男女ともに今回の高校生のほうが12年前の高校生より高い賛成率がみられる。

大学生は図1-3に呈示したが、「性的な欲求はできるだけおさえるべきである」の項目への賛成率が今回対象の高校生に比べて有意に低い (男  $\chi^2=11.332, df=1, p<.01$ , 女  $\chi^2=12.143, df=1, p<.01$ ) とところが目立つ。

## 3 純潔観

この点については、図2-1、2-2に示す。「結婚するまでは純潔であるべきだ」、「婚約者同士なら

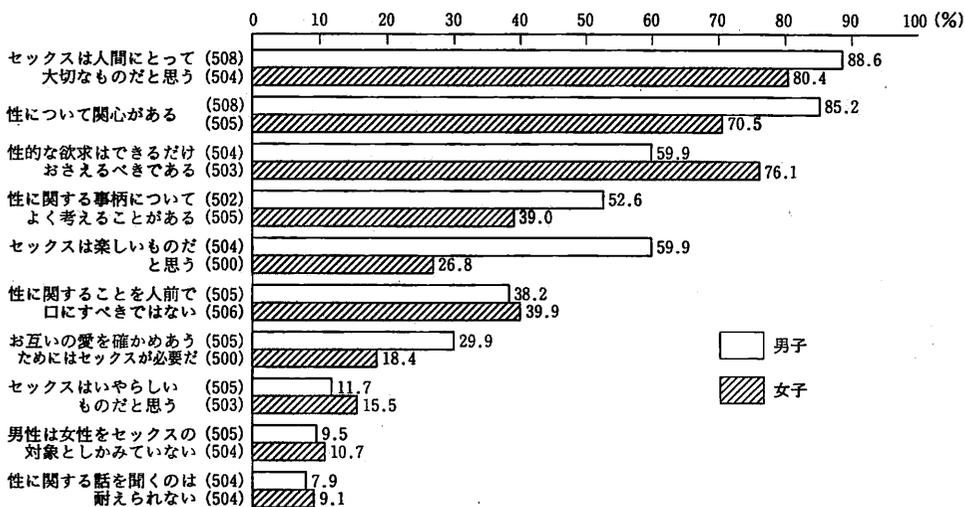


図1-1. 性に関する意見 (高校生・1982年).

\* 東京都生活文化局(1982)による調査

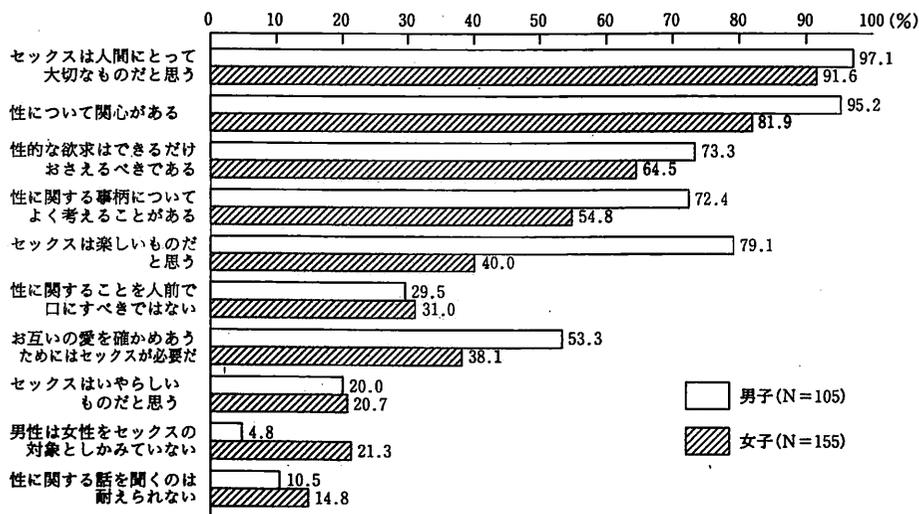


図1-2. 性に関する意見 (高校生・1994年).

\* 今回の鈴木・山浦(1994)による調査

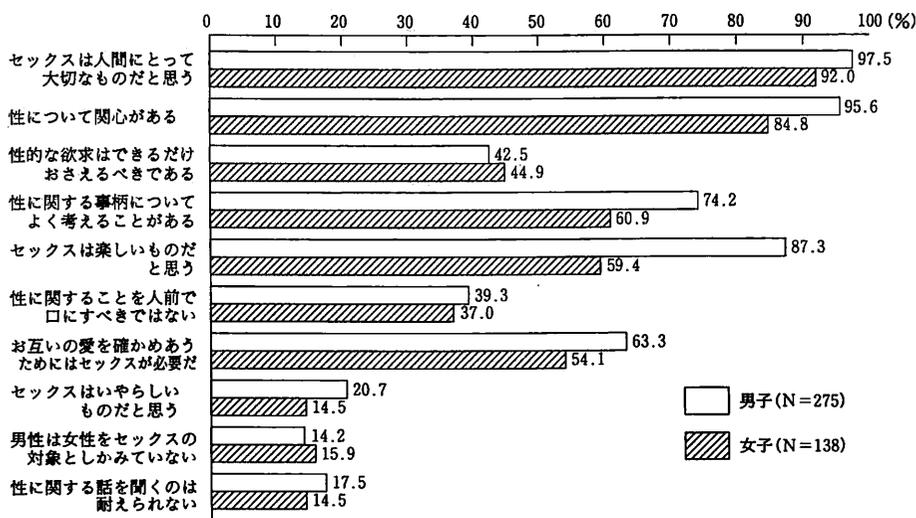


図1-3. 性に関する意見 (大学生).

\* 今回の鈴木・山浦(1994)による調査

性行為が行われてもよい」、「愛があれば性行為が行われてもよい」、「愛のない性行為も行われてよい」の4選択肢のうちから最も賛成の項目ひとつを選んでもらった結果である。ここでも、上記2の性意識のところと軌を一にして、今回の調査対象の高校生の方が、「愛があれば性行為が行われてもよい」とする意見を最も賛成として有意に多く選んでいるのがわかる (男  $\chi^2 = 14.165$ ,  $df = 3$ ,  $p < .01$ , 女  $\chi^2 = 57.141$ ,  $df = 3$ ,  $p < .01$ )。ここで山田・山田 (1987)

の12年前の東京都の結果に対するコメントを引用しておく。「この“愛”のありかたこそが問題なのかも知れない。たとえ性的関係を持つことが愛の名を借りたものであっても、たんに性欲を満たす道具になっていたたり、自らの行為に対する責任感を欠いている場合には成熟した真の愛だというわけにはいかない。女性史家の高群逸枝は、性と愛の分断は歴史的産物であることを論証しながら『貞操の復活』を提唱したが、その意味は『恋愛の良心』の復活であっ

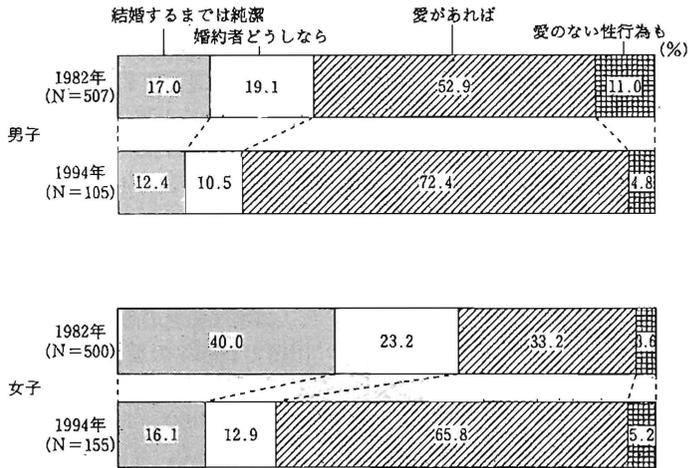


図 2-1. 純潔観 (高校生).

\* 東京生活文化局 (1982), 今回の鈴木・山浦 (1994) による調査

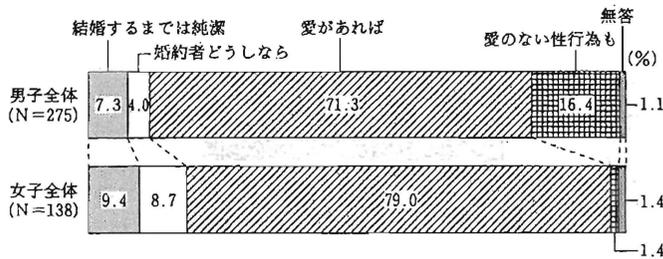


図 2-2. 純潔観 (大学生).

\* 今回の鈴木・山浦 (1994) による調査

て、男女が相互尊敬, 相互責任, 相互信頼によって支えられてこそ真の恋愛が成立すると述べたのであった。・・・」 現今の世相に鋭く迫るものを含んでいる。

#### 4 異性間の友情成立の可能性

異性間に友情は成立するものであろうか。それとも、友情は成り立たず異性への友情は恋愛感情そのものと同じなのであろうか。それは友情と恋愛感情の定義によるとの考えが浮かぶが、われわれはここでは回答者の主観的判断にゆだねることとした。自分自身が友情と考え、自分自身が恋愛感情と考えること自体が友情であり恋愛感情であると考えることにしたのである。これについては、現在の高校生と大学生の回答を比較して表 2 に示す。

現在の高校生・大学生とも異性間の友情は成立すると考えている者が極めて多い。高校生は男女とも

表 2 異性間の友情の成立の可能性  
 (「異性間の友情は成立すると思うか」の問への回答)  
 (鈴木・山浦 1994)(%)

	そう思う	わからない	そう思わない
高校生 男 (N=105)	75.2	21.0	3.8
高校生 女 (N=155)	74.2	21.9	3.9
大学生 男 (N=275)	63.3	27.3	9.5
大学生 女 (N=138)	71.0	24.6	4.3

ほぼ75%を占め、大学生も男子で6割強、女子で7割強がこの考えに賛意を示している。しかも、異性間の友情は成り立たないと考えている者は、高校生で男女とも4%にみたく、大学生でも男子で9%強、女

子では4%ほどである。

上述したように、友情と恋愛感情の区別は極めて個人的なものであって、客観的な基準を設定すること自体あまり意味がないと思われるが、質問事項に若者たちの多くが異性間の友情は成り立つと考えていることは、なんらかの一般的な風潮が底流にあるように思える。恋人関係は閉じていて、友人関係は開いていると考えているが（ちなみに木村俊夫の恋愛の定義参照）、最近の若者たちは、マス・メディアを通して異性間の交際の様々な姿の情報を入手する機会が多いことから、実に多様な異性間交際を頭に描いたり、体験していると思われる。例えば、月刊誌の男女交際にかかわる特集を読んで、異性とのつき合いをそれほど深刻にいちいち考えなくてよいと思ったり、男女混合の人気歌手グループメンバー間の調和のとれた活発な活動を見て、それも異性間の中からとした友情の実現のモデルとしてとらえたりしていることが想像される。男女間の友情については、今の若者たちが壮年・高齢世代が考えるよりも、もっと屈託のない、自然なものとして、新しい姿を生み出しつつあるのかも知れない。

## 5 恋愛と結婚との関係

### 5-1 恋愛と結婚の一致度

恋愛と結婚の一致について、今から19年前に望月嵩による大学生に対する調査結果と今回の結果を比較してみる。表3に示すように、特に顕著に目につくのが、今回の女子大学生の回答で、19年前と比べ、「一致するのが望ましい」への回答が24%ほど上回り、58.7%となっている。男子大学生では、19年前に「一致すべきである」との回答が14.9%であった

のに対して、今回はわずか、4.4%へ減少している。しかし、男子大学生の場合、「一致すべきである」と「一致するのが望ましい」の2項目への回答が両時期とも35%から40%あたりで、「必ずしも一致しなくてもよい」も両時期ともほぼ45%と類似の傾向を示している。女子大学生の「必ずしも一致しなくてもよい」の選択率が今回減少していることと合わせて考えてみて、興味ある傾向と言えよう。

### 5-2 恋愛の延長としての結婚観

「結婚は恋愛の延長にあると思うか」という山田・山田の1986年の結果と今回の結果を対比して示す(表4)。これを見ると8年前の大学生たちは男女ともほぼ64%のものが「そう思う」と回答していた。それに比べて、今回の調査においては、男子大学生は「そう思う」が40%弱と減少しており、「わからない」が8年前の17%から37%へと上昇している。女子大学生も、8年前と比べ「そう思う」のものが、50%と減少している。それに反して「わからない」は増加している。また、現在の高校生は、8年前の大学生と今回の大学生の傾向の、ちょうど中間に位置するような格好になっている。

## 6 恋愛と結婚についてイメージする色

「恋愛」の色については、男子は大学生も高校生も「赤」が1位でそれぞれ36.0%、27.6%、ついで「ピンク」の30.9%、25.7%と続く。3位も大学生・高校生とも「青」であるが該当する率はかなり減少して、それぞれ4.4%、14.3%であった。なお、大学生は「白」が同率3位であった。高校生は「白」が4位で9.5%を示した。一方、女子では大学生・高校生とも「ピンク」がトップでそれぞれ53.6%、47.7%。

表3 恋愛と結婚の一致の程度に関する意見 (%)

	大学生・1975年 (望月*)		大学生・1994年 (鈴木・山浦)		高校生・1994年 (鈴木・山浦)	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
一致すべきである	14.9	5.7	4.4	6.5	5.7	9.0
一致するのが望ましい	21.9	34.3	37.1	58.7	40.0	39.4
必ずしも一致しなくてもよい	44.2	40.7	44.7	26.1	41.9	35.5
別である	13.5	15.7	13.8	8.7	12.4	16.1
わからない	3.3	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0
無答	2.3	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(N)	(215)	(140)	(275)	(138)	(105)	(155)

\* 望月嵩 1975 青年期の男女交際と結婚観 大正大学研究紀要61 より

表4 恋愛の延長としての結婚観  
 (「結婚は恋愛の延長にあると思うか」の問への回答) (%)

	大学生・1986年 (山田・山田*)		大学生・1994年 (鈴木・山浦)		高校生・1994年 (鈴木・山浦)	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
そう思う	64.6	64.2	37.8	50.7	51.4	43.2
わからない	17.1	12.7	37.5	32.6	37.1	40.7
そう思わない	18.3	23.1	24.0	16.7	11.4	16.1
無答	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(N)	(82)	(109)	(275)	(138)	(105)	(155)

\* 山田良一・山田英美 (1986) 青年と恋愛・結婚 鈴木・松田 (編) 現代青年心理学より

ついで2位が両者とも「赤」で17.3%, 25.5%であった。3位は両者とも「青」で8.0%, 5.8%であったが、女子高校生は「水色」がそれと同率3位であった。その他の色はいずれも挙げている人数が多くはないが参考までに示すと、男子では「黄色」「無色」「緑」「驚」「セピア」「グレー」など、そのほかには「穏やかな色」「はかない色」といった興味深い記述もあった。また、女子では「ばら」「オレンジ」「アプリコット」「生成り」など、ほかに「穏やかな色」「あったかな色」があった。

「結婚」の色は男子で大学生・高校生とも1位は「白」43.6%, 47.6%で、2位は大学生が「青」で11.3%, 高校生は「赤」で11.4%であった。3位は大学生で「赤」10.2%, 高校生は「ピンク」で9.5%であった。女子では、大学生・高校生とも1位が「白」50.7%, 45.2%, 2位が大学生では「青」9.4%, 高校生では「青」と「赤」とが同率で12.3%であった。

「恋愛」の色から青年たちの情熱の一端が、また「結婚」の色から青年たちの結婚について清楚なイメージが読み取れるが、恋の色や結婚の色を「青」とイメージできる時代を生きている青年たちは幸せである。先の大戦で特別攻撃隊として出撃した兵士の遺書の中に、これから死に臨む夏空の青（それが自らの墓標）と、基地の近くの森で鳴く蟬の声を記したものがあつたが、彼は、ここでのわれわれの調査に協力してくれた学生たちとまさに同じ年齢の兵士であつた。

## 7 結婚に当たって重視する事柄

このことについては、今から10年ほど前、詫摩武俊 (1985) が大学生に対して行ったチェック項目を

そのまま使用し、今回 (1994) 大学生と高校生に実施したところと比較してみる (表5-1, 5-2, 5-3)。

まず大学生男子から見ていく。「健康」「趣味の一致」「顔立ち」は、いずれも重視する方向の結果が出ており、しかも「非常に重視」と「かなり重視」の両水準への回答の出現率が、10年前と今回とでかなり類似している (これらの項目の4選択肢への回答率は10年前と今回とで有意差なし。尤度比検定による)。また、これらと逆方向の「全く重視しない」と「ほとんど重視しない」への回答比率が10年前のそれと類似しているものに、「宗教の一致」「年齢のバランス」「相手の家の財産」「同じ人種であること」「職業」が挙げられる (これらの項目への4選択肢への回答率は10年前と今回とで有意差なし。尤度比検定による)。

ところで前出「健康」「趣味の一致」「顔立ち」3項目のように「非常に重視」と「かなり重視」それぞれにその出現率が類似しているわけではないが、「非常に」と「かなり」の両水準を合わせると、傾向が似ている項目が「性格」と「愛情」である。すなわち「性格」を「非常に重視する」が10年前は95%強もあつたのに比べ、現在はそれが6割弱に減少している ( $\chi^2=24.404$ ,  $df=3$ ,  $p<.01$ )。しかし「かなり重視」に4割弱が回答していて、この項目の「重視」は合わせて98%弱となっている。同様の傾向が「愛情」にも見られる。「非常に重視」の水準に8割強が該当していたのが10年前であるが、今回は6割に減少している ( $\chi^2=7.165$ ,  $df=3$ ,  $p<.10$ )。しかし「かなり重視」が4割弱で「非常に」の水準と合わせると98%強となる。この2つの項目に対する

表5-1 結婚にあたって重視する程度  
(大学生・1985年：訖摩) (%)

		非常に 重視	かなり 重視	ほとんど 重視しない	まったく 重視しない	無答
1 性格	男	95.7	2.1	2.1	0.0	0.0
	女	91.9	8.1	0.0	0.0	0.0
2 愛情	男	80.9	17.0	2.1	0.0	0.0
	女	84.4	15.6	0.0	0.0	0.0
3 健康	男	44.7	40.4	12.8	2.1	0.0
	女	46.7	50.4	2.2	0.0	0.7
4 収入	男	4.3	12.8	57.4	25.5	0.0
	女	14.1	65.2	18.5	0.7	1.5
5 趣味の一致	男	10.6	40.4	36.2	12.8	0.0
	女	9.6	49.6	37.0	3.0	0.7
6 宗教の一致	男	6.4	8.5	31.9	53.2	0.0
	女	3.0	18.5	48.9	28.9	0.7
7 年齢のバランス	男	2.1	31.9	48.9	17.0	0.0
	女	1.5	37.8	51.1	8.9	0.7
8 学歴	男	4.3	17.0	42.6	36.2	0.0
	女	9.6	57.8	29.6	1.5	1.5
9 将来性	男	6.4	23.4	55.3	14.9	0.0
	女	27.4	59.3	12.6	0.0	0.7
10 顔立ち	男	17.0	46.8	31.9	4.3	0.0
	女	3.7	34.1	55.6	5.9	0.7
11 スタイル・身長	男	17.0	40.4	34.0	8.5	0.0
	女	5.2	43.7	44.4	5.9	0.7
12 両親の賛成	男	14.9	25.5	40.4	19.1	0.0
	女	25.2	60.0	13.3	1.5	0.0
13 頭のよいこと	男	25.5	38.3	17.0	19.1	0.0
	女	25.9	60.0	13.3	0.0	0.7
14 処女であること 童貞であること	男	8.5	17.0	38.3	36.2	0.0
	女	4.4	11.9	42.2	40.0	1.5
15 相手の家柄	男	4.3	8.5	42.6	44.7	0.0
	女	1.5	35.6	41.5	20.7	0.7
16 相手の家の財産	男	4.3	10.6	40.4	44.7	0.0
	女	1.5	21.5	51.1	24.4	1.5
17 生育環境の類似	男	4.3	21.3	42.6	31.9	0.0
	女	13.3	43.7	31.1	10.4	1.5
18 同じ人種である こと	男	14.9	27.7	23.4	34.0	0.0
	女	11.9	33.3	39.3	14.8	0.7
19 きょうだい数	男	0.0	8.5	27.7	63.8	0.0
	女	0.0	10.4	48.1	40.0	1.5
20 職業	男	2.1	25.5	46.8	25.5	0.0
	女	18.5	54.8	20.0	5.2	1.5

男：N=47 女：N=135

\* 訖摩武俊 1985 青年の恋愛 西平・久世(編) 青年心理学ハンドブックより

表5-2 結婚にあたって重視する程度  
(大学生・1994年：鈴木・山浦) (%)

		非常に 重視	かなり 重視	ほとんど 重視しない	まったく 重視しない	無答
1 性格	男	57.9	39.8	1.8	0.5	0.0
	女	80.2	19.1	0.8	0.0	0.0
2 愛情	男	60.6	37.1	1.8	0.5	0.0
	女	80.2	18.3	1.6	0.0	0.0
3 健康	男	31.7	48.0	19.5	0.5	0.5
	女	37.3	51.6	11.1	0.0	0.0
4 収入	男	8.1	21.3	56.6	14.0	0.0
	女	11.9	57.1	29.4	1.6	0.0
5 趣味の一致	男	15.8	41.2	37.6	5.0	0.5
	女	13.5	51.6	30.2	4.0	0.8
6 宗教の一致	男	9.1	6.3	28.5	56.1	0.0
	女	5.6	19.8	47.6	27.0	0.0
7 年齢のバランス	男	6.3	28.1	48.9	15.8	0.9
	女	4.0	23.8	50.8	21.4	0.0
8 学歴	男	4.5	5.9	46.6	42.5	0.5
	女	1.6	27.0	58.7	12.7	0.0
9 将来性	男	8.1	23.1	48.4	20.4	0.0
	女	11.9	54.8	29.4	4.0	0.0
10 顔立ち	男	17.2	52.5	26.2	3.6	0.5
	女	1.6	27.8	64.3	6.4	0.0
11 スタイル・身長	男	18.1	49.8	27.2	5.0	0.0
	女	1.6	30.2	62.7	5.6	0.0
12 両親の賛成	男	13.1	31.7	34.4	20.8	0.0
	女	15.1	53.2	26.2	5.6	0.0
13 頭のよいこと	男	7.2	18.6	52.0	21.7	0.5
	女	8.7	42.1	40.5	8.7	0.0
14 処女であること 童貞であること	男	9.1	10.0	42.1	38.9	0.0
	女	0.0	7.1	43.7	49.2	0.0
15 相手の家柄	男	5.4	7.2	48.0	39.4	0.0
	女	1.6	11.1	56.4	31.0	0.0
16 相手の家の財産	男	6.3	5.4	47.5	40.7	0.0
	女	0.0	7.1	55.6	37.3	0.0
17 生育環境の類似	男	7.2	17.7	48.4	25.3	1.4
	女	5.6	28.6	46.8	19.1	0.0
18 同じ人種である こと	男	14.9	24.4	28.1	32.6	0.0
	女	7.1	24.6	41.3	27.0	0.0
19 きょうだい数	男	4.1	2.3	42.5	50.7	0.0
	女	0.0	1.6	44.4	48.4	0.0
20 職業	男	7.7	15.8	46.6	29.9	0.0
	女	8.7	39.7	38.1	13.5	0.0

男：N=221 女：N=126

\* 本表は1985年の詫摩武俊による調査項目を使用して、1994年に鈴木・山浦が大学生に対して行った調査の結果である。

表5-3 結婚にあたって重視する程度  
(高校生・1994年：鈴木・山浦)(%)

		非常に 重視	かなり 重視	ほとんど 重視しない	まったく 重視しない	無答
1 性格	男	51.4	46.7	1.9	0.0	0.0
	女	78.1	21.3	0.7	0.0	0.0
2 愛情	男	61.0	37.1	1.9	0.0	0.0
	女	81.3	18.1	0.7	0.0	0.0
3 健康	男	19.1	52.4	27.6	1.0	0.5
	女	27.1	54.2	15.5	3.2	0.0
4 収入	男	3.8	16.2	61.9	18.1	0.0
	女	11.6	52.3	31.0	5.2	0.0
5. 趣味の一致	男	3.8	32.4	51.4	12.4	0.5
	女	11.0	39.4	43.2	6.5	0.8
6 宗教の一致	男	2.9	5.7	27.6	63.8	0.0
	女	5.2	8.4	38.1	48.4	0.0
7 年齢のバランス	男	2.9	35.2	45.7	16.2	0.9
	女	3.9	24.5	45.8	25.8	0.0
8 学歴	男	0.0	3.8	57.1	39.1	0.5
	女	2.6	16.8	58.1	22.6	0.0
9 将来性	男	1.9	12.4	61.0	24.8	0.0
	女	11.6	39.4	35.5	13.6	0.0
10 顔立ち	男	16.2	61.9	21.9	0.0	0.5
	女	6.5	40.0	46.5	7.1	0.0
11 スタイル・身長	男	12.4	58.1	28.6	1.0	0.0
	女	5.8	37.4	49.0	7.7	0.0
12 両親の賛成	男	4.8	25.7	42.9	26.7	0.0
	女	19.4	37.4	32.3	11.0	0.0
13 頭のよいこと	男	1.0	12.4	61.9	24.8	0.5
	女	5.8	24.5	47.1	22.6	0.0
14 処女であること 童貞であること	男	5.7	12.4	51.4	30.5	0.0
	女	1.3	8.4	40.0	50.3	0.0
15 相手の家柄	男	1.0	2.9	56.2	40.0	0.0
	女	1.9	15.5	42.6	40.0	0.0
16 相手の家の財産	男	0.0	0.0	56.2	43.8	0.0
	女	1.3	5.2	48.4	45.2	0.0
17 生育環境の類似	男	0.0	11.4	47.6	41.0	1.4
	女	2.0	14.3	56.5	27.3	0.0
18 同じ人種である こと	男	7.6	13.3	41.0	38.1	0.0
	女	3.2	15.5	37.4	43.9	0.0
19 きょうだい数	男	0.0	1.9	36.2	61.9	0.0
	女	0.0	5.2	32.3	62.6	0.0
20 職業	男	1.0	12.4	61.0	25.7	0.0
	女	8.4	34.2	41.3	16.1	0.0

男：N=105 女：N=155

\* 本表は1985年の詫摩武俊による調査項目を使用して、1994年に鈴木・山浦が高校生に対して行った調査の結果である。

水準の低下は興味深い。「性格」「愛情」といったある意味では抽象的で掴みどころのない特性を、結婚の重要項目として挙げてはいるものの、うつろい易い特性にあまりに大きな比重をかけるのをためらってしまうのか、それとも様々な夫婦の姿を、テレビ、ラジオ等を通して知る機会が増えたことによって、より現実的な判断をくだす傾向が出てきたのであろうか。

一方、10年前に比べて重視の傾向が増えた項目は「スタイル・身長」( $\chi^2 = 14.352$ ,  $df = 3$ ,  $p < .01$ )で、逆に、重視の程度が減ったものは「頭のよいこと」( $\chi^2 = 27.083$ ,  $df = 4$ ,  $p < .01$ )である。前者については外面重視の世相のあらわれか、いわば男の本音の部分が顔をのぞかせているのかも知れない。

次に女子について見てみよう。女子は男子とやゝ違った傾向を示した。まず、「性格」「愛情」は10年前とほとんど等しい程度に重視している(これら2項目への4選択肢への回答率は有意差なし。尤度比検定による)。男子の傾向と比べ実に興味深い。これは女子の社会進出がめざましくなってきた昨今、二通りの解釈が可能である。ひとつは結婚後も仕事を続けたいという意志を十分尊重してくれる男性を求めたい、その様な男性は性格もよく、愛情も深く、自分を分かってくれるはずと考える女子が増えてきたことのあらわれ、いまひとつは、結婚して家庭にはいる場合、妻の立場からすれば、夫の存在が生活のほとんどを占める。したがって夫になる人の「性格」「愛情」の重視は当然であろうとする考えである。「収入」「趣味の一致」「宗教の一致」も10年前とほぼ似た傾向が示された。

ところが「学歴」( $\chi^2 = 48.129$ ,  $df = 4$ ,  $p < .01$ )、「両親の賛成」( $\chi^2 = 12.464$ ,  $df = 3$ ,  $p < .01$ )、「頭のよいこと」( $\chi^2 = 45.899$ ,  $df = 4$ ,  $p < .01$ )、「相手の家柄」( $\chi^2 = 20.495$ ,  $df = 4$ ,  $p < .01$ )、「相手の家の財産」( $\chi^2 = 12.386$ ,  $df = 4$ ,  $p < .05$ )、「生育環境の類似」( $\chi^2 = 17.612$ ,  $df = 4$ ,  $p < .01$ )、「きょうだい数」( $\chi^2 = 11.132$ ,  $df = 3$ ,  $p < .05$ )、「職業」( $\chi^2 = 21.852$ ,  $df = 4$ ,  $p < .01$ )はいずれも10年前の女子大学生よりも重視しない傾向があらわれている。男子大学生の傾向と比べ実に興味深い。女子の自立の精神の着実な歩みが読み取れる資料と言えよう。

次に高校生について見てみよう(表5-3参照)。「性格」「愛情」は重視する傾向がここでも強く、その出現率の傾向は今年の大学生と男女とも極めてよく似ている。「顔立ち」「スタイル・身長」は、10年

前と今年の大学生の傾向を上回って重視する方向に傾いている点が注目される。「処女であること・童貞であること」をあまり重視しない傾向が示されているが、この傾向は今回の大学生と類似している。「相手の家柄」「相手の家の財産」「生育環境」「同じ人種であること」「きょうだい数」等を重視しない傾向も大学生とよく似た傾向を示している。

高校生たちは今の大学生と比べていわゆる「外見」の重視以外、大学生とほぼ類似の傾向を示していることがうかがえる。

総じて、現代の若者たちの中には、結婚相手を「一個の人間」として見ようとする傾向が浸透し、結婚が「家」と「家」とのかかわりの中で進展していくといった旧来の風潮が姿を消していく様が浮き出ているといえる。

## 8 現代青年の特質の現代青年自身による認識

本研究の直接的な目的ではないが、現代青年の特質を現代青年自身がどのように認識しているかを尋ねたところのごく概要を報告する。上の節までに考察してきたところの補完的な意味を含めて見てみることにする。

今回、われわれは独自に大学生・高校生に「現代の青年の特色といったらどんなことを思い浮かべますか。自由に書いてください。」という質問を調査項目の最後に置いて自由記述による回答を求めた。それをカテゴリー化して傾向を探ろうとした。紙数の都合でここにその結果の全てを表示することはできないが、主だったところを記述する。

大学生も高校生も「個性的」「やさしい」「元気」など、いわゆる社会的に望ましいとされる特徴をいくつか挙げているが、「元気」を除いてその数は少ない(「元気」に該当する記述：大学生女子28.3%、高校生12.3%)。特にこれらの望ましいとみなされるカテゴリーには男子で該当する回答が極端に少ない。すべて1桁代のパーセントである。一方「無気力」「無関心」「無感動」といった三無主義とひと頃言われたものが、今回の調査では大学生に多く出ている。これら三つの内「無気力」が際だって多い。男子大学生で17.5%、女子大学生で27.4%である。一方、人間関係に関わるカテゴリーでは、「明るい」「女性を性の対象としか見ていない」「浅いつきあい」「結婚が早い」「結婚が遅い」など現代の世相を反映しているものがみられた。これらの記述は自分自身を省みて書いたものなのか、自分の周りにいる友達を思い浮かべながら書いたものなのか、あるいは、世間

一般の、いわば現代青年一般についてのイメージを書いたものなのか、この調査からは判断できないが、現代の青年像の一端を確かに物語っていると考えた。

本研究を通してわれわれは、現代の青年たちが、交友・恋愛・結婚について、多様な価値観、人間観を呑み込みながら、いわば異性間行動規範とも呼べるような、新しく、幅広い規範を生み出している途上にあるような印象を抱いた。

## 謝 辞

本研究を進めるにあたり、詫摩武俊氏、望月嵩氏、山田良一氏、山田英美氏、東京都生活文化局ら先達の各位の諸研究の質問項目・事項に基礎をおかせていただいた。多くの大学生、高校生諸氏にご協力をいただき、特に調査の実施者として、該当高等学校の教師の方々には、ご多用中にもかかわらず、積極的な援助を賜った。さらに、結果の統計処理にあたって、本学の篠原弘章氏のコンピュータ・プログラムを使用させていただいた。ここに記して感謝の意を表す。

## 参考文献

- Hall, S. 1904 *Adolescence* 2 Vols. D. Appleton & Co.  
 木村俊夫 1955 恋愛と結婚 牛島義友・桂 広介・依田 新 (編) 青年心理学講座2 金子書房  
 久世敏雄 (編) 1977 青年の心理 福村出版

- 久世敏雄・加藤隆勝・五味義夫・江見佳俊・鈴木康平・斎藤 耕二 1980 青年心理学入門 有斐閣  
 望月 嵩 1975 青年期の男女交際と結婚観 大正大学研究 紀要61  
 西平直喜 1973 青年心理学 (現代心理学叢書第7巻) 共立 出版  
 野上俊夫 1919 青年心理講話 弘文堂書房  
 ルソ-著 今野一雄訳 1963 エミール 岩波書店 (原本は 1762年出版)  
 鈴木康平 1971 勤労青少年の心理 大西誠一郎・武上 薫 (編) 現代青年の心理 [改訂版] 黎明書房  
 鈴木康平 1977 青年の自己形成 久世敏雄 (編) 青年の心理 福村出版  
 鈴木康平 1982 友情と孤独 久世敏雄 (編) 高校生の心理 と教育 黎明書房  
 鈴木康平・松田 愷 (編) 1987 現代青年心理学 有斐閣  
 Spranger, E. 1924 *Psychologie des Jugendalters Quelle & Meyer*  
 シュブランガー著 (1924) 土井竹治訳 1973 青年の心理 五月書房  
 詫摩武俊 1973 自我と自己の概念 東 洋・大山 正他 (編) 心理用語の基礎知識 有斐閣  
 詫摩武俊 1985 青年の心理 [第2版] 培風館  
 詫摩武俊 1988 青年の恋愛 西平直喜・久世敏雄 (編) 青年心理学ハンドブック 福村出版  
 東京都生活文化局 1982 大都市高校生の性をめぐる意識と 行動  
 牛島義友 1940 青年の心理 巖松堂書店  
 山田良一・山田英美 1987 青年と恋愛・結婚 鈴木康平・松 田 愷 (編) 現代青年心理学 有斐閣  
 依田新・大西誠一郎 1953 青年心理学 明治図書

付録

青年期の交友関係・恋愛などに関する意識調査

青年期の交友関係（同性、異性）恋愛、結婚観などを知りたくてこの調査を企画しました。個人票を単独で公開することは決してありません。名前も記入する必要はありません。思っていること、行っていることをありのままにお書きください。

熊本大学教育学部心理学教室 鈴木康平

男・女 年齢（ ）歳

1 あなたは現在特に親しくしている異性がいますか。はい…その人は恋人ですか親友ですか。…恋人・親友  
いいえ

- 2 その異性とはどの程度のつき合いですか。あてはまるすべての行為に○印をつけてください。
- a. 学校の行き帰りに会うこと
  - b. 毎晩のように電話をかけたり、手紙を書いたりすること
  - c. 手をつないだり、腕を組んだりして歩くこと
  - d. 2人だけで映画に行くこと
  - e. キス
  - f. グループでのドライブやハイキング等
  - g. グループでの外泊
  - h. 自分たちの結婚について話し合うこと
  - i. セックス（性交）
  - j. 2人だけでのドライブやハイキング
  - k. 相手（あるいは自分）の部屋で2人きりになること
  - l. 2人だけでの外泊
  - m. ペッチング（相手の胸や身体にさわったり、さわられたりすること）

3 次の項目にどのくらい賛成か反対か、1から4のうち該当する数字を○で囲んでください。

		大いに反対	どちらかといえば反対	どちらかといえば賛成	大いに賛成
ア	セックスは人間にとって大切なものだと思う	1	2	3	4
イ	性について関心がある	1	2	3	4
ウ	性的な欲求はできるだけおさえるべきである	1	2	3	4
エ	性に関する事柄についてよく考えることがある	1	2	3	4
オ	セックスは楽しいものだと思う	1	2	3	4
カ	性に関することを人前で口にすべきではない	1	2	3	4
キ	お互いの愛を確かめ合うためにはセックスが必要だ	1	2	3	4
ク	セックスはいやらしいものだと思う	1	2	3	4
ケ	男性は女性をセックスの対象としかみていない	1	2	3	4
コ	性に関する話しを聞くのは耐えられない	1	2	3	4

4 あなたは次の考えの内どれに賛成しますか。最も賛成の意見に○印をつけてください。

- ア 結婚するまでは純潔であるべきだ
- ウ 愛があれば性行為が行われてもよい
- イ 婚約者どうしなら性行為が行われてもよい
- エ 愛のない性行為も行われてよい

- 5 あなたは恋愛と結婚は一致すべきだと考えますか。  
 ア 恋愛と結婚は、絶対に一致すべきだ                      ウ 恋愛と結婚は、必ずしも一致しなくてよい  
 イ 恋愛と結婚は、一致するのが望ましい                      エ 恋愛と結婚は別である
- 6 あなたは結婚は恋愛の延長にあると思いますか。  
 ア そう思う    イ わからない    ウ そう思わない
- 7 あなたは異性間の友情は成り立つと思いますか  
 ア そう思う    イ わからない    ウ そう思わない
- 8 あなたは「恋愛」と「結婚」それぞれについて、どんな色を思い浮かべますか。    恋愛の色    結婚の色
- 9 現代の青年の特色といったらどんなことを思い浮かべますか。自由に書いてください（裏面に書いてくださっても結構です）（箇条書きにして7項目くらい書いていただけると幸いです）
- 10 あなたは結婚にあたってどのようなことを重要視しますか。以下のそれぞれの項目についてあてはまる数字を○で囲んでください。

	ま つ た く 重 視 し な い	ほ と ん ど 重 視 し な い	か な り 重 視 す る	非 常 に 重 視 す る			
1 性 格.....	1	—	2	—	3	—	4
2 愛 情.....	1	—	2	—	3	—	4
3 健 康.....	1	—	2	—	3	—	4
4 収 入.....	1	—	2	—	3	—	4
5 趣味の一致.....	1	—	2	—	3	—	4
6 宗教の一致.....	1	—	2	—	3	—	4
7 年齢のバランス.....	1	—	2	—	3	—	4
8 学 歴.....	1	—	2	—	3	—	4
9 将来性.....	1	—	2	—	3	—	4
10 顔立ち.....	1	—	2	—	3	—	4
11 スタイル.....	1	—	2	—	3	—	4
12 両親の賛成.....	1	—	2	—	3	—	4
13 頭のよいこと.....	1	—	2	—	3	—	4
14 童貞（処女）であること.....	1	—	2	—	3	—	4
15 相手の家柄.....	1	—	2	—	3	—	4
16 相手の家の財産.....	1	—	2	—	3	—	4
17 生育環境の類似.....	1	—	2	—	3	—	4
18 同じ人種であること.....	1	—	2	—	3	—	4
19 きょうだい数.....	1	—	2	—	3	—	4
20 職 業.....	1	—	2	—	3	—	4